

高等教育開発をリードする人材が
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための
「教職員能力開発拠点」活動報告書

——— 平成30年度

[平成31年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

はじめに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）として認定され、平成22年4月から平成27年3月までの5年間にわたって様々なFD/SDの取組を行いました。その実績が高く評価された結果、平成26年7月には、引き続き「教職員能力開発拠点」として5年間の再認定（第2期認定期間：平成27年4月～平成32年3月）を受け、第1期から取り組んできたFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDer/SDC/IRer）の養成にさらに注力して参りました。

平成29年4月の大学設置基準等の一部改正により、「SDの義務化」及び「教職協働」が法令等に明記され、教職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための取組や、教員・事務職員等が連携協力して業務に取り組むことがこれまで以上に重要となっています。本拠点では、独自資格である「SDコーディネーター（SDC）」の認定制度を平成23年3月に設け、SDに関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者（SDC）の養成を積極的に推進して参りました。今年度は、SDC資格取得希望者に対するフォローアップセミナーを開催するなど重点的に支援の取組を行った結果、これまでで最多となる7名（学外認定者4名を含む）のSDCを輩出するなど、多くの実践的指導者の養成を行うことができました。

本拠点の重点事業であるFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成講座については、今年度は、「SDコーディネーター養成講座&IRer養成講座」を大学コンソーシアム大阪及び大学評価コンソーシアムの後援を受けて大阪で初めて開催し、参加者からも好評を得ることができました。また、第2期認定期間の最終年度となる来年度は、受講者の皆さまから高く評価いただいていることもあり、3つの養成講座（FDer/SDC/IRer）すべてを開催する計画を立てております。多くの皆さまの御参加をお待ちしております。

ここに、教職員能力開発拠点の今年度の活動をまとめた年次報告書をお届けします。われわれとしましては、本拠点の活動内容や成果を広く皆さまに報告し、自らの活動を振り返る中で時宜にかなった新たな活動に結びつけていきたいと考えています。講座開催や研修講師派遣等の活動は、本拠点スタッフにとっても、新たな気付きが得られる貴重な機会であり、本拠点事業を通じて、教育の質向上へと繋がる人材育成の輪が多くの機関、そして多くの方々に広がっていくことを心より願っています。今後とも、教職員能力開発拠点の発展に御支援、御協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人愛媛大学長

大橋 裕一

平成30年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
(1)	組織概要	1
(2)	スタッフ紹介	3
2	教職員能力開発拠点について	
(1)	教職員能力開発拠点の認定について	4
(2)	教職員能力開発拠点の実施体制について	5
(3)	教職員能力開発拠点の事業計画について	7
3	平成30年度の事業報告	
(1)	平成30年度事業の総括	9
(2)	平成30年度活動実績	
①	FD／SD／IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援	11
②	研修プログラムの開発・提供	21
③	講師派遣／オープン・オフィス	45
④	情報発信	57
⑤	その他教職員能力開発に関する事業	58
参考資料		
①	第2期教職員能力開発拠点目標体系図	63
②	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規	64
③	愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項	66
④	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	69
⑤	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	70
⑥	共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	72

1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

(1) 組織概要

ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進すること。

教育企画室の業務（内規第4条及び第10条） ※P.64～65参照

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究等に関すること。
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
3. 授業評価及びシラバスに関すること。
4. 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
5. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
6. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
7. その他教育開発に係る調査，研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

教育企画室各部門について

教育・学習支援部門

主に教職員の能力開発を通して教育活動及び学習活動の支援を行っている。教員の能力開発としては、授業の改善，カリキュラムの改善，組織の整備・改革という3つのレベルにおいて、ワークショップ，セミナー，授業コンサルテーション，教育コーディネーター研修会などを実施している。職員の能力開発としては、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で専門分野別及び階層別のSDのプログラムやサービスを提供している。

教育調査・分析部門

主に教育・学習の実態・成果に関する調査の企画・実施・分析を行っている。新入生や卒業予定者等へのアンケートの調査結果を分析することで全学的な教育改善及び情報公開を行っており、調査結果の報告は「IRレポート」にまとめ、学内関係者に届けている。また、調査結果から想定される課題，他大学も含めたIRに関わる取組などを「教育企画室ニュースレター」に掲載して情報発信をしている。

学生能力開発部門

主に学生の能力開発を知性と人間性の両側面から支援する教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。その代表的な取組が、学生のリーダーシップを高める「愛媛大学リーダーズ・スクール」である。また、スタディ・スキル講座等のプログラム開発，学生による調査・研究プロジェクト（プロジェクトE）の運営，大学院生の能力開発を目的としたTA研修，附属高校のキャリア教育支援等を実施している。

歴史

- 1993年：旧教養部を改組して、大学教育研究実践センター（学内施設）が設置される。
- 2001年：大学教育総合センター（学内施設）となる。
- 2002年：大学教育総合センター（省令施設）となる。
センター内にできた教育システム開発部が、FDを担当する。
- 2004年：教育・学生支援機構の設置に伴い、教育開発センター（共通教育部・教育開発部）に名称を変更する。
- 2006年：教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が、それぞれ共通教育センターと教育企画室に改組される。
「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に、本学教育・学生支援機構から申請していた「FD/SD/TAD 三位一体型能力開発」（代表：教育・学生支援機構 教育企画室長 高瀬恵次教授）が採択される。
- 2008年：「戦略的大学連携支援事業」に、本学が代表校となり申請した「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』による大学の教育力向上」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 佐藤浩章准教授）が採択される。
- 2010年：「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点の認定を受ける。
- 2012年：「大学間連携共同教育推進事業」に、本学が代表校となり申請した「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNGL）」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 秦敬治教授）が採択される。
- 2014年：2015年以降も引き続き、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成27年4月1日～平成32年3月31日）として、文部科学大臣からの認定を受ける。

(2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

<教育企画室 スタッフ>

氏 名	職 名	専 門
小林 直人 - KOBAYASHI Naoto	学長特別補佐（教育）， 教育・学生支援機構副機構長， 教育企画室長，医学部教授	医学教育カリキュラム， 学生の自己学習への支援，FD 等
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	教育企画室副室長，教授	高等教育論，人材育成論 （SDC 資格取得者）
清水 栄子 - SHIMIZU Eiko	講師 （※H30.9～学外転出）	高等教育，学習支援 （SDC 資格取得者）
村田 晋也 - MURATA Shinya	講師	組織論（FD），リーダーシップ論， 人的資源管理論
仲道 雅輝 - NAKAMICHI Masaki	講師	インストラクショナルデザイン， 教育工学，FD，e-learning （SDC 資格取得者）
竹中 喜一 - TAKENAKA Yoshikazu	特任助教	高等教育論，教育工学 （SPOD－SDC 資格取得者）
上島 洋佑 - UEHATA Yosuke	特任助教	高等教育論，SD，IR （SDC 資格取得者）
阿部 光伸 - ABE Mitsunobu	学生支援センター講師	SD，高等教育政策，産業教育論 （SDC 資格取得者）
高橋 平徳 - TAKAHASHI Yoshinori	教職総合センター講師	生涯学習論，人的資源管理論
丸山 智子 - MARUYAMA Tomoko	学生支援センター講師	教育開発，リーダーシップ， プロジェクト・マネジメント （SDC 資格取得者）

2. 教職員能力開発拠点について

(1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。平成26年7月31日には、本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価され、教育関係共同利用拠点としてさらに5年間認定が継続された。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD/SD/IRの専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

◎拠点名：教職員能力開発拠点

◎認定施設の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関

◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）

平成27年4月1日～平成32年3月31日（5年間）（再認定）

◎代表者名：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構副機構長 教育企画室長）

【参考】本拠点以外の「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」に係る拠点（平成30年度）

施設名	拠点名
北海道大学 高等教育研修センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
東北大学 高度教養教育・学生支援機構	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
山形大学 教育開発連携支援センター	地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点
筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター	多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育拠点
千葉大学 大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学 アカデミック・リンク・センター	教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点
金沢大学 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門	教育改善・大学の組織開発を支える研修人材育成拠点
岐阜大学 医学教育開発研究センター	医学教育共同利用拠点
名古屋大学 高等教育研究センター	質保証を担う中核教職員能力開発拠点
山口大学 知的財産センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（知的財産教育）
九州大学 基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点
佐賀大学 全学教育機構 クリエイティブ・ラーニングセンター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（ICT活用教育）
熊本大学 教授システム学研究センター	教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター	理工学教育共同利用拠点
帝京大学 高等教育開発センター	FD推進共同利用拠点～グローバルなFD研修プログラムとポートフォリオを活用した成果評価手法の開発～

(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

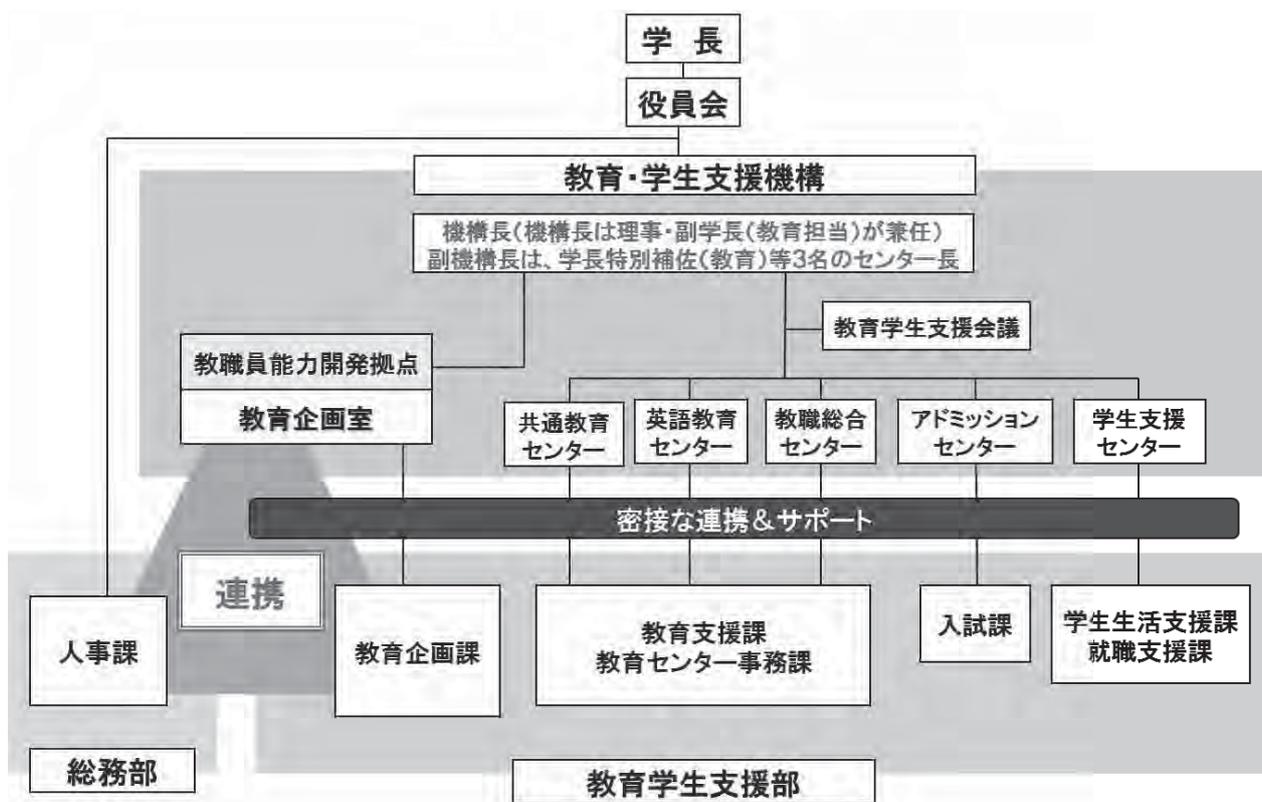
教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長（教育担当）が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。

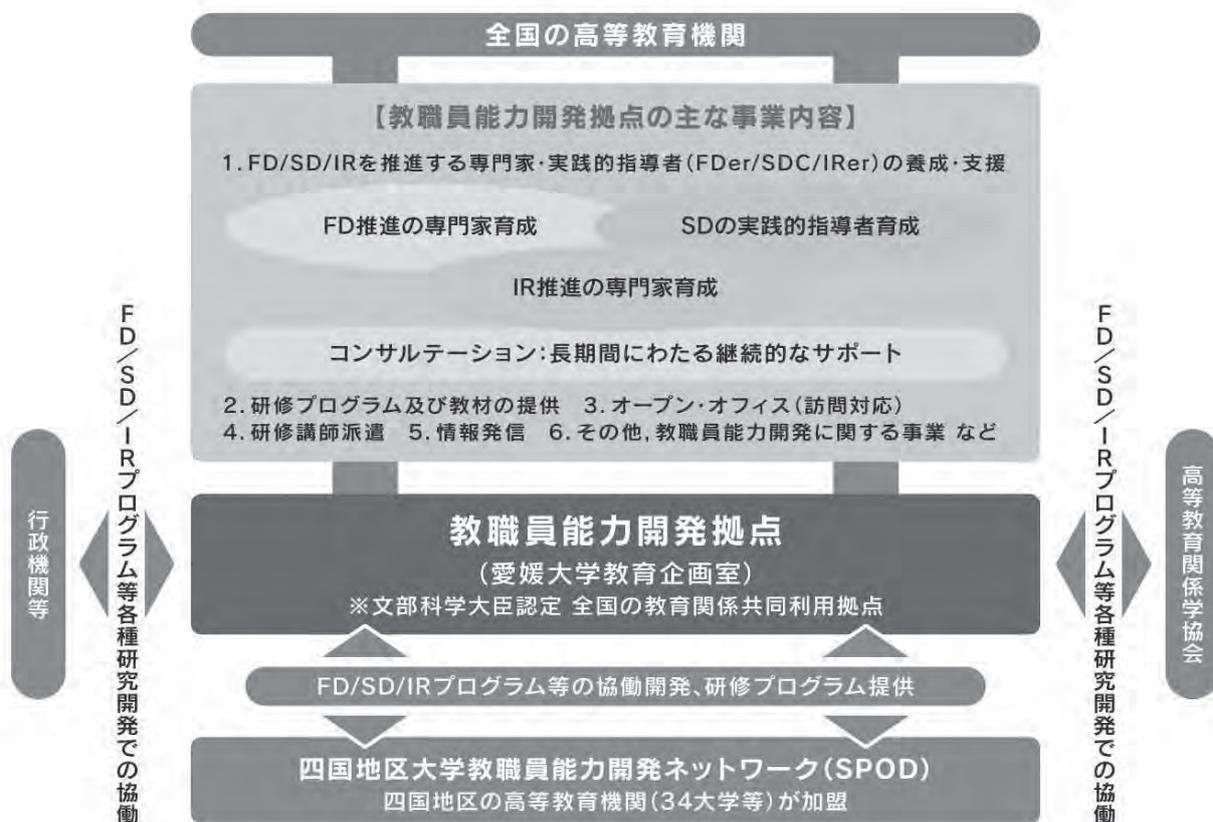


教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。

共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員等の学内関係者のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.69, P.72参照）。

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に同委員会において、再認定後の「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した（次頁参照）。また、本拠点事業の評価・改善を円滑に行うために、事業目的や評価指標を示した「第2期教職員能力開発拠点目標体系図」についても併せて作成した（P.63参照）。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。（P.70, P.72参照）



教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、日本高等教育開発協会（JAED）や大学評価コンソーシアムなどの高等教育関係学協会、他の教育関係共同利用拠点等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。

(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

平成27年6月30日
共同利用運営委員会決定

1. 事業目的

本事業は、学生の学びの促進を担う教職員の能力開発を行うことにより、全国の高等教育機関における教育の質向上に寄与することを目的とする。これまでに開発したFD/SDプログラムを充実させ、全国の高等教育機関で活用できる研修および各種サービスを提供する。とりわけ、高い波及効果が期待できるFD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成を重点的な取り組みとし、各組織における自律的な教育改善を支援することを目指す。

2. 事業内容

(1) 教職員能力開発拠点は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

- ①FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IR e r）の養成・支援
- ②研修プログラム及び教材の提供
- ③オープン・オフィス（訪問対応）
- ④研修講師派遣
- ⑤情報発信
- ⑥その他、教職員能力開発に関する事業

※上記①～⑥までの事業を行うために必要な施設は、授業やその他の行事と併用しながら提供する。

(2) (1)の事業を実施するために、以下の活動を行う。

- ①広報（ホームページ、案内パンフレット、メールマガジン等）
- ②他機関との連携等によるプログラム及び教材等の開発
- ③研修講師及び訪問対応ができる人材の育成

3. 利用申込み方法

教育企画室ウェブサイト、案内パンフレット等でプログラム内容、定員、連絡先等を示し、参加者等の申込みを受け付ける。

4. 共同利用の決定等

(1) 研修講師派遣

教育企画室ウェブサイトに研修ニーズアンケートを掲載し、その結果及び以下の優先順位に基づき、教育企画室会議で研修講師派遣の可否及び研修講師を決定する。

【優先順位】

- ① 複数の高等教育機関の教職員が参加する研修である。
- ② 単一の高等教育機関においても全学的な取組である。
- ③ その他

(2) 訪問対応

教育企画室ウェブサイトに訪問ニーズアンケートを掲載し、その結果に基づき、教育企画室会議で訪問対応の可否を決定する。

(3) 研修プログラム提供

愛媛大学が提供するプログラムの中から、教育企画室会議で提供する研修プログラムを決定する。ただし、他の機関やコンソーシアムと共同で実施する研修プログラムについては、定員数、申込み方法、共同利用の決定方法やアンケート様式等について当該機関と協議を行う。

(4) 教材等提供

教育企画室ウェブサイトに掲載する教材等は、非営利目的においてのみ利用できるものとし、利用にあたっては、次の「利用条件」を付すものとする。

【利用条件】

- ① 教材等を改変しないこと。なお、技術的に再現困難な場合には、改変することを認めるが内容は改変しないこと。
- ② 必ず教材等の出所（教材作成者名、教材名、研修会（会議）名等）の表示を行うこと。
- ③ 教材等を引用の範囲を超える目的で利用する場合には、作成者の使用許諾を必ずとること。
※上記③の使用許諾が必要な方は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に所属、氏名、連絡先、使用許諾が必要な資料名、利用目的を記載し、申請すること（様式任意）。

5. 実績管理

共同利用運営委員会等に報告するため、1年間の各事業の実績を所定の様式に取りまとめる。また、各事業の評価を得るため、以下のことを行う。

- (1) 講師派遣 派遣先の機関が実施するアンケート結果の提供を依頼する。
- (2) 訪問対応 アンケート様式を作成し、訪問者に依頼する。
- (3) 研修プログラム提供 アンケート様式を作成し、プログラム受講者に依頼する。

上記に基づき、教職員能力開発拠点の事業等を実施するために必要な事項については、教育企画室会議で決定する。

平成30年度教職員能力開発拠点事業計画

◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、FD/SD/I Rの専門性の高い指導者の育成、及び長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援など、以下の事業を行うほか、他の機関やコンソーシアムとの連携を強化する。さらに、これまでの実績を踏まえ、その成果について具体的な事例収集及び効果検証を行い、本事業の充実を図る。

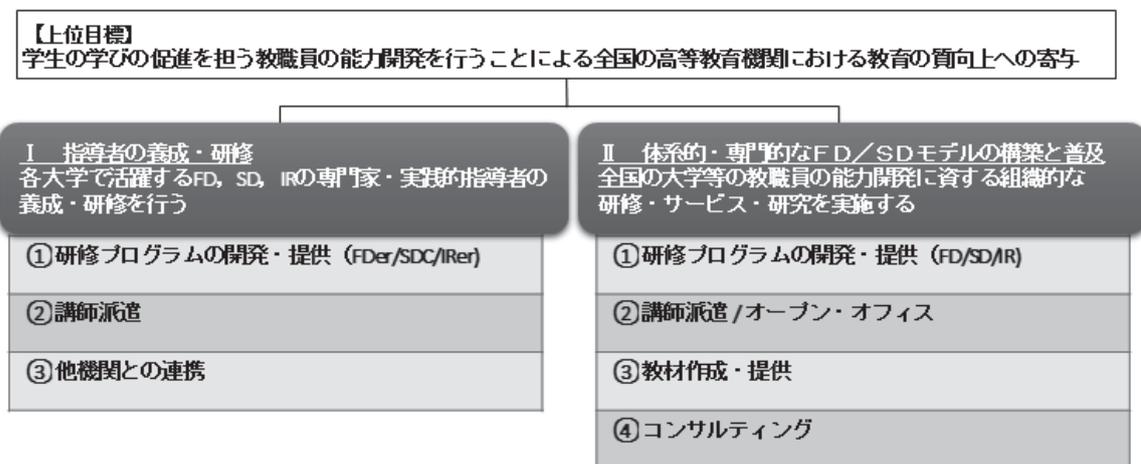
◇事業内容

- ①—1 FD/SD/I R推進の専門家・実践的指導者の養成・支援
自大学において教育改善を推進できるFDer（ファカルティ・ディベロッパー）、SDコーディネーター（能力開発担当教職員）、教学IRer（教学分野に特化した機関調査の担当教職員）を養成するための研修を実施するほか、研修受講者に対する継続的な支援を実施する。平成30年度は「SDC/I Rer養成講座」を開催予定である。
- ①—2 FD/SD/I R推進の専門家・実践的指導者の認定
独自の認定資格である教職員能力開発拠点SDコーディネーターを認定する他、FDer・教学IRerについても資格認定が可能かどうか検討を行う。
- ② 研修プログラム及び教材の提供
設置形態や組織の規模、受験難易度等にとらわれない、全国の高等教育機関で活用できる基礎的なFD/SDプログラムを提供する。さらに、ガバナンス機能の強化にも対応できるよう、新たにI R関係プログラムを開発・提供する。さらに、研修のために開発された教材等、教職員の能力開発に関するオリジナル教材を教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関等の非営利目的において利用してもらう。
- ③ オープン・オフィス（訪問対応）
愛媛大学の取組事例や各種プログラムの紹介や全国の高等教育機関のFD/SD/I Rに関する相談を年5回程度行う。年間スケジュールについては、あらかじめ教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関の教職員が参加しやすいようにする。
- ④ 研修講師派遣
多種多様なメニューや経験豊富なスタッフを揃え、引き続き、全国の高等教育機関のニーズにあう研修講師を派遣する。事前に「研修ニーズアンケート」を行うなどして、ニーズの把握に努める。研修講師先については、基本方針に定めた優先順位に基づき、決定する。
- ⑤ 情報発信
教育企画室ウェブサイトの充実を図り、広く教職員の能力開発に関わる情報を発信する。また、本拠点の取組内容や活動実績・成果等について、学会等で発表していく。
- ⑥ その他教職員能力開発に関する事業
上記オープン・オフィスや研修講師派遣に、カリキュラムコンサルティングや能力開発コンサルティングといったコンサルテーションを組み合わせた継続的な支援を行う。さらに、他の機関やコンソーシアムとネットワークを形成し、連携した事業についても検討していく。

3. 平成30年度の事業報告

(1) 平成30年度事業の総括

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針に基づき、各取組を体系立てて教育的資源の提供を行っている。以下、今年度の取組状況を総括していく。



① FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者 (FDer, SDコーディネーター, IRer) の養成・支援 (上図 I-①③に対応)

本事業の中でも特に重点を置く取組であり、今年度はSDに関して2講座、IRに関して1講座を開催した。10月17日～19日に大阪で開催した「SDコーディネーター (SDC) 養成講座&IRer養成講座」では、全国から62名の教職員が参加し、それぞれの役割に必要な知識や具体的手法を学んだ。また、SDC養成講座受講者に対する継続的支援として、12月3日に「SDC養成講座フォローアップセミナー」を開催し、7名の参加者がSDC資格取得に向けたプログラムに臨んだ。これらの講座は、所属大学が抱える課題や事例に関する情報共有の場としても活用されている。

② 研修プログラムの開発・提供 (上図 II-①に対応)

教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できるよう、全20プログラムを提供した。今年度は全国から延べ363名の参加があり、いずれの研修においても参加者から高い満足度を得た。特に、12月7日～8日に愛媛大学において開催した「スタッフ・ポートフォリオ (SP) 作成ワークショップ」では、「SPを作成したい」「SPについてもっと知りたい」と東北、四国等各地から6名の職員が参加した。ワークショップでは、愛媛大学の事例を交えながらSPの有効性について学び、講師によるメンタリングを受け、実際にSPを作成した。教材については、教育企画室が開発したオリジナルの教材等を愛媛大学教育企画室のホームページに掲載しており、非営利目的で活用いただけるようにしている。

③ 講師派遣 / オープン・オフィス

(上図 I- ②, II- ②に対応)

授業・教授法やカリキュラム、業務改善等、多様なプログラムを揃え、全国の高等教育機関からの依頼に応じて講師を派遣している。今年度は、49機関からの依頼を受け、56件の講師派遣を行った(平成31年2月末現在)。

また、本学の取組への問合せやFD/SD/IRに関する相談等、全国の高等教育機関等からの訪問調査に対応するため、オープン・オフィス(年5回)や個別訪問に随時対応しており、今年度は国公立大学を含む8機関から個別訪問があった。訪問目的に合わせて最適な教職員が対応にあたり、本学の取組事例を基に効果的な組織体制のための提案を行った(平成31年2月末現在)。

④ 情報発信

(上図 II- ③に対応)

昨年度に引き続き、ポスター「データから考える愛大授業改善 Vol. 4」や教育企画室ニュースレター「IR News 第6号」を作成し、IRを中心に愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信している。

また、教育企画室が開発したオリジナルの教材や刊行物等の一部について、愛媛大学教育企画室のホームページに掲載しており、非営利目的で活用いただけるようにしている。

⑤ その他教職員能力開発に関する事業

(上図 II- ④に対応)

国際交流協定校と職員の相互派遣による研修の一環として、アメリカ合衆国 College of Lake Country (CLC) 職員に対し、本拠点代表がFD/SDの取組を紹介する等、国際連携にも対応した。また、授業やカリキュラム改善等に関わる個別相談を受けコンサルティングを実施した他、学会発表や論文・記事の誌面掲載等により、本拠点の成果や実績のアウトプットを行った。

おわりに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成27年度以降の5年間、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」として再認定を受け、今年度も他大学や関係機関の皆様に御支援をいただき、各事業に取り組んで参りました。

特に本拠点の重点的取組であります、FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成については、10月に「SDコーディネーター(SDC)養成講座&IRer養成講座」を大学コンソーシアム大阪及び大学評価コンソーシアムの後援を受けて開催し、全国各地から60名以上の教職員が参加されました。開催にあたり、御協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

次年度は、第2期認定期間の最終年度となりますが、他大学や関係機関との連携を図りながら、高等教育の発展に努めて参りたいと考えております。全国の高等教育機関の皆様におかれましては、引き続き、本事業に御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教職員能力開発拠点 代表

小林 直人 (愛媛大学学長特別補佐, 教育・学生支援機構教育企画室長)

(2) 平成30年度活動実績

1. FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IRer）の養成・支援

各大学等において自律（立）的にFD, SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点の第2期では、第1期から取り組んでいるFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成にさらに重点を置くこととしており、今年度も他大学やコンソーシアムと連携しながら、SDについて2講座、IRについて1講座を開講した。

なお、「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」については隔年開催となっているため、来年度実施予定である。

a. SDの実践的指導者の養成・支援

本拠点では、職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、特定の認定基準を満たしたSDの実践的指導者のことを「SDコーディネーター（SDC）」と称しており、今年度は学外者4名を含む7名が新たにSDCとして資格認定された（詳細はP. 66参照）。SDC資格を取得した学外者4名はいずれも、後述する「SDC養成講座」や「フォローアップセミナー」を過去に受講しており、SDの実践的指導者養成の取組が着実に成果を伸ばしている。

SDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター：SDの実践的指導者）とは

職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、以下4点を担うことのできるSD実践的指導者

- (1) 大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- (2) 各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- (3) 職員のキャリア開発
- (4) 人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案

SDCの資格認定基準

1. 高等教育機関のスタッフ・ディベロップメントの推進に対する意欲と展望を有している。
2. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得している。
3. 高等教育機関における職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法を修得している。
4. スタッフ・ポートフォリオ*を作成する職員に対するメンター経験を有している。
5. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有している。

※スタッフ・ポートフォリオとは、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）が開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

■ 10月17日（水）～19日（金）開催 SDコーディネーター養成講座

本講座は、職員の能力開発の実践的指導者に求められる能力や役割を理解し、実際にSD推進に活用できる具体的手法の習得を目的として、平成24年度以降、毎年開催している。今年度は、大学コンソーシアム大阪の後援を受けて大阪にて開催し、関西地方を中心に22名の職員の参加があった。参加者は、人材育成ビジョンやキャリア開発についての知識・手法を学んだ後、SDプログラムの企画、運営、評価の基本を学び、実際にSDプログラムを開発するワークに臨んだ。最終日には、開発したSDプログラムについて発表を行い、3日間の成果を共有することができた。

<プログラム構成>

◆組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ

自大学における人材育成ビジョンの構築を目指す。例えば、求める職員像や職員のキャリア開発、キャリア形成のために、組織としてどのようなビジョンが必要であるか等を学ぶ。

◆キャリア開発手法／個人のビジョン作成ワークショップ

参加者が自らのスタッフ・ポートフォリオを作成し、ワークショップを通じて職員としての理念・ビジョンを整理し、自らがメンターとしてメンタリングを体験することにより、職員のキャリア開発手法を学ぶ。

◆SDプログラム企画・運営・評価手法／SDプログラム開発ワークショップ

SDプログラムを企画・運営・評価するための手法を学ぶ。さらに、ワークショップを通じて開発したSDプログラムについて発表を行い、全体で共有を行う。

※受講者は事前課題としてスタッフ・ポートフォリオを作成



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・SDについて体系的かつ具体的に学ぶことができ、自大学に持ち帰り具体的なアクションに繋げるイメージを持つことができた。
- ・人を育てていく大切さを改めて実感することができた。非常に参考となり、SDの大切さを知ることができた。
- ・SPの作成を通して、自分の気付かなかった考え方に気付けた。

■ 12月3日（月）開催「SDC養成講座」フォローアップセミナー

本セミナーは、過去の「SDC養成講座」受講者への継続的な支援として、平成25年度から実施している。今回は、SDC資格取得希望者のうち、資格取得に必要となる「職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法の修得」に関するプログラム未受講者を対象に開催し、7名が参加した。本セミナー参加者のうち2名が、今年度新たにSDC資格を取得しており、継続的な支援の取組が着実に実を結んでいる。

<プログラム構成>

◆「職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法の修得」に関するプログラム

- ・人材育成ビジョンの必要性について理解する
- ・組織の人材育成ビジョンワークショップ



【参加者からの声】

- ・求められる人材像を文章でまとめるための手法や盛り込むべき要素について、ワークを通じて理解することができた。
- ・組織と職員の双方が成長するための最も基本的な指針が、職員人材育成ビジョンであることがわかった。
- ・職員人材育成ビジョンを作成する過程で、理念や目的・強みや弱みといった自大学の特徴を考える機会になった。

b. IR推進の専門家の養成・支援

IR（インスティテューショナル・リサーチ）は、計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動である。近年、各大学では大学のガバナンス機能の強化が求められており、本拠点ではIRを推進する専門家（IRer）を養成するための講座を開講している。本講座は、平成26年度（開催地：福岡）、平成28年度（開催地：名古屋）と隔年で開催していたが、近年のIRへの関心の高さから昨年度は当初の計画を変更して開催（開催地：愛媛）し、今年度は3年連続での開催となった。

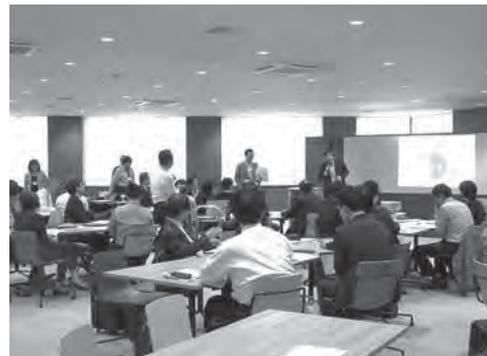
IRer（インスティテューショナル・リサーチャー：IR推進の専門家）とは

教学に関わる様々なデータ（各種調査や教務データ等）に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家。

※本拠点におけるIRとは、特に教育・学生支援に関するIR「教学IR」を指します。

■10月17日（水）～19日（金）開催 IRer養成講座

本講座は、IRの担当者として、IRの意義や方法、データ分析や管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、所属大学におけるIRの実務を推進または改善するための具体的な手法を身につけることを目的として開催している。今年度は、大学コンソーシアム大阪及び大学評価コンソーシアムの後援を受け、SDコーディネーター養成講座と一部合同で大阪にて開催した。全国から教職員40名（教員6名、職員34名）が参加し、IRerに必要とされる基本的な知識や質的・量的データの分析方法等の具体的なスキルを習得し、さらに、分析結果をもとにした改善策の提案や発表までの一連のプロセスを踏んで理解を深めた。参加者からは、「IRの捉え方と具体的な分析手法を理解することができた」等、高い評価をいただくとともに、参加者間の交流を通じて刺激を受けることができたとして好評を得た。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 96.8%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
②知識やスキルを身につけることができた。 93.5%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・自身のレベルを実感することができた。IRに必要な知識を得ることができた。
- ・統計学について、その意義と活用のシーンをワークを通して体験することができた。
- ・多くの質問をすることができ、それに対する的確な答えを得ることができた点がよかった。

教職員能力開発拠点事業

SDコーディネーター養成講座 &

I Rer 養成講座 in 大阪

2018.10.17 wed - 19 fri

会場：関西大学 梅田キャンパス（大阪市北区鶴野町1番5号）

参加費：無料

主催：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

（教職員能力開発拠点）

後援：大学コンソーシアム大阪

大学評価コンソーシアム ※I Rer 養成講座のみ



愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）は、全国の高等教育機関の発展のためFD/SD/I Rの専門家・実践的指導者の養成に取り組んでいます。
今回は大学コンソーシアム大阪，大学評価コンソーシアムの後援を受けて，大阪で開催いたします。
全国の皆様のご参加をお待ちしております。

参加対象者

◆ SDコーディネーター養成講座

SDを担当する教職員，
SDコーディネーターに関心のある教職員

◆ I Rer 養成講座

I Rを担当する教職員
（I Rの経験が1年以上10年未満の方）

※3日間の参加が可能な方のみとなります。全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。

※民間企業等に勤務の方の参加はお断りしております。

※多くの機関の方々にご参加いただくため，同一機関からのお申し込みが多数の場合は，全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。

講師



小林直人

SDC/IRer養成講座
教職員能力開発拠点代表
愛媛大学学長特別補佐
教育企画室長
教授



小湊卓夫

IRer養成講座
大学評価コンソーシアム
代表幹事
九州大学 基幹教育院
人文社会科学部門 准教授



畷田敏行

IRer養成講座
大学評価コンソーシアム
総務担当 副代表幹事
茨城大学全学教育機構
総合教育企画部門 准教授



塩川雅美

SDC養成講座
大学コンソーシアム大阪
SD研修コーディネーター
大阪市立大学 客員教授
(SDC)



中井俊樹

SDC/IRer養成講座
愛媛大学
教育企画室 副室長
教授
(SDC)



清水栄子

IRer養成講座
愛媛大学
教育企画室
講師
(SDC)



上島洋佑

SDC/IRer養成講座
愛媛大学
教育企画室
特任助教



竹中喜一

IRer養成講座
愛媛大学
教育企画室
特任助教



吉田一恵

SDC養成講座
愛媛大学
教育学生支援部
愛媛大学SD統括コーディネーター
能力開発室長 (SDC)



砂田寛雅

SDC養成講座
愛媛大学
社会共創学部事務課
副課長



吉松明子

SDC養成講座
愛媛大学
教育学生支援部
教育企画課 副課長



井川貴通

SDC養成講座
桃山学院教育大学
キャリアラーニングセンター



葛西崇文

SDC養成講座
青森中央学院大学
教育開発推進課
リーダー

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点(拠点名称:教職員能力開発拠点)に認定され(認定期間5年)、平成26年7月には、さらに5年間の再認定を受けました。

教職員能力開発拠点では、FD/SD/IRの専門性の高い指導者の育成、長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/SD研修プログラムの提供など、幅広い取組を行っています。

ACCESS 関西大学 梅田キャンパス

JR大阪駅から徒歩10分 / 阪急梅田駅茶屋町側から徒歩5分



大学コンソーシアム大阪

大学コンソーシアム大阪は、平成11年に31大学により設立された大阪府内大学学長会を前身とした、大阪府内の4年制(6年制)大学で構成される団体です。

平成19年8月に特定非営利活動法人(NPO法人)になり、現在42の会員を擁して多様な活動を行っています。

大阪府内およびその周辺の大学の相互連携を深めるとともに、地域社会・産業界・行政と協力しあって、地域社会に貢献し、お互いの連携を強めること・国際交流を進めることを目的として、高大連携・大学間連携・インターンシップ・国際交流・地域連携・SD研修等の活動を進めています。

大学評価コンソーシアム

平成22年に組織された大学評価コンソーシアムは、大学評価・IR実務者、高等教育関係者が加盟する任意団体で、現在、加盟機関数は約270機関、会員数は約800名となっています。

「相互交流の場」という基本姿勢に加えて、参加者の目的に応じた、多様なテーマを取り扱いつつ、我が国における高等教育機関の評価文化や、IR業務の高度化など、大学間の連携、協力を通じて大学経営の改善・充実に役立つ大学評価やIRの実現に貢献することを目的としています。

お問い合わせ 愛媛大学 教育学生支援部教育企画課

TEL: 089-927-9154 E-mail: kiyoi@stu.ehime-u.ac.jp

SDコーディネーター養成講座

実施目的

職員の能力開発の実践的指導者（SDコーディネーター／SDC）になるため、その役割や求められる能力を理解し、実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としています。

到達目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる
3. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ（SP）を作成することができる
4. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
5. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる

10月17日（水）

- 12:30 受付
13:00 オープニング・アイスブレイク ※ I R e r 養成講座と合同開催
13:25 会場移動
13:30 オリエンテーション/SD, SDCについて理解する[塩川雅美]
14:00 人材育成ビジョンの必要性について理解する[吉田一恵]
14:30 組織の人材育成ビジョンワークショップ[吉田一恵]
(適宜休憩)
17:00 終了
18:00～20:00 情報交換会(参加任意/会費:4,000円)
※ I R e r 養成講座と合同開催

10月18日（木）

- 9:30 SP,メンタリングの導入事例及びその有効性について
[砂田寛雅・吉松明子]
10:30 メンタリングを実践する[井川貴通]
12:00 休憩
13:00 個人のビジョン作成ワークショップ[葛西崇文]
14:30 休憩
14:40 SDプログラムを企画・運営する[上島洋佑]
15:50 休憩
16:00 SDプログラムを評価する[中井俊樹]
17:00 SDプログラムを開発する[上島洋佑]
17:30 終了

10月19日（金）

- 9:30 SDプログラムを開発する[全講師(進行:上島洋佑)]
11:20 休憩
12:50 SDプログラム発表(ポスターセッション)[全講師(進行:上島洋佑)]
13:40 振り返り[全講師]
13:55 会場移動
14:00 クロージング ※ I R e r 養成講座と合同開催
15:00 終了

事前課題

- ① スタッフ・ポートフォリオ
※受付完了後、様式をお送りします。
- ② 自大学で実施している『新任職員に対する研修』の実施要項(受講者間で共有可能なもの)
※PDFデータ(A4用紙5枚まで)
該当するものがない場合は、職員に対する何らかの研修の実施要項で結構です。
※資料の1枚目右上に大学名・氏名をご記入ください。

提出期限：平成30年9月21日（金）

提出先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

事前課題で提出いただいた
スタッフ・ポートフォリオ2部

※研修会当日メンタリングを
実施する際に使用します。

お申し込み

受付期間：7月18日(水)正午～8月20日(月)正午

先着
30名

- サイトからお申し込み <https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>
※受付完了後、確認メールを送信いたします。 ※いただいた情報は本講座以外に使用することはありません。
- Webサイトからお申し込み出来ない場合は下記までメールでご連絡下さい。
宛先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp 件名：SDC養成講座申し込み（氏名〇〇〇〇）

I R e r 養成講座

実施目的

I Rの担当者として、I Rの意義や方法、データ分析や管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、所属大学におけるI Rの実務を推進または改善するための具体的手法を身につけることを目的としています。

到達目標

1. I Rの意義と方法について説明できる
2. データの適切な管理を組織的に行う方法を説明できる
3. 学生にかかわるデータの分析を行うことができる
4. データ分析を基に教育や学生支援の改善提案ができる
5. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる

事前課題

- ① Excel (Windows 版) を用いた統計分析
- ② 所属大学におけるI Rの取組とご自身のI Rの業務経験に関するポートフォリオ

※受付完了後、様式をお送りします。

※資料の1枚目右上に、大学名及び氏名をご記入ください。
※提出いただいた資料は参加者に配付し共有します。

提出期限：平成30年9月21日(金)

提出先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

ノートパソコン

※Excel(2013以降のバージョン)
がインストールされたもの
※研修会の2日目・3日目に
使用します。

10月17日(水)

12:30 受付
13:00 オープニング・アイスブレイク ※SDC養成講座と合同開催
13:30 オリエンテーション[竹中喜一]
13:40 I Rの意義と方法を理解する[中井俊樹]
14:50 休憩
15:00 所属大学のI Rの特徴と課題を理解する[清水栄子]
15:35 I R e rに必要な能力を理解する[小湊卓夫]
16:10 休憩
16:20 データの適切な管理方法を理解する[竹中喜一]
17:00 I Rに関する質疑応答①[全講師]
17:30 終了
18:00~20:00 情報交流会(参加任意/会費:4,000円)
※SDC養成講座と合同開催

10月18日(木)

9:30 前日の振り返り
9:45 管理者が求める報告のポイントとは[小林直人]
10:30 実務担当者による分析のポイントとは[高田敏行]
11:45 休憩
12:45 質的データを分析する[上島洋佑]
13:50 量的データを分析する(事前課題の振り返り)[竹中喜一・清水栄子]
15:20 休憩
15:30 I Rに関する質疑応答②[全講師]
16:00 教育・学生支援の改善提案を考える①(グループワーク)[竹中喜一・清水栄子]
17:30 終了

10月19日(金)

9:30 教育・学生支援の改善提案を考える②(グループワーク)[竹中喜一・清水栄子]
11:20 休憩
12:50 教育・学生支援の改善提案を考える③(発表)[全講師(進行:竹中喜一)]
13:50 振り返り[全講師]
14:00 クロージング ※SDC養成講座と合同開催
15:00 終了

お申し込み

受付期間：7月18日(水)正午～8月20日(月)正午

先着
40名

- サイトからお申し込み <https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>
※受付完了後、確認メールを送信いたします。 ※いただいた情報は本講座以外に使用することはありません。
- Web サイトからお申し込み出来ない場合は下記までメールでご連絡下さい。
宛先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp 件名：I R e r 養成講座申し込み(氏名○○○○)

教職員能力開発拠点事業

スタッフ・ポートフォリオ 作成ワークショップ in 愛媛

2018年12月7日(金)～12月8日(土)

会場：愛媛大学 城北キャンパス 共催：大学コンソーシアムえひめ

スタッフ・ポートフォリオを 
業務の振り返りや人材育成に活用してみませんか？

参加費 無料

2日目の昼食代として1,000円が必要です。

定員 16名

多数の機関の方々にご参加いただくため、定員を超過申し込みがあった場合、各機関1名(先着順)とさせていただきます。

参加対象者：スタッフ・ポートフォリオを作成したい高等教育機関の職員

* 2日間の参加が可能な方のみとなります。

* 民間企業等に勤務されている方の受講はお断りしております。

スタッフ・ポートフォリオとは

職員が自らのこれまでの業績を具体的な裏付け(エビデンス)に基づき整理し、これからのキャリアのビジョンとゴールを記載する職員業績記録です。作成することにより、業務の振り返りと整理が促され、自らの成長をあらためて認識できるとともにキャリア形成を図ることが可能となります。また、組織的に導入することによって、人材育成に有効活用できるツールとして期待されます。

実施目的

大学職員としての自己を振り返り、メンタリングを通して今後のキャリアにおけるビジョンをより一層明確にしなが、スタッフ・ポートフォリオを実際に作成することを目的としています。

到達目標

- 1 スタッフ・ポートフォリオのメリットについて説明できる
- 2 スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター、メンタリングの重要性について説明できる
- 3 自身のキャリアを振り返ることができる
- 4 自身のキャリアのビジョンについて考えることができる
- 5 スタッフ・ポートフォリオを作成することができる



申し込み：9月26日(水)正午～10月15日(月)正午

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/> ※ 受付完了後、確認メールを送信します。

ホームページから申し込みできない場合は、下記までメールでご連絡ください。

◆ 宛先 / kyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

◆ 件名 / スタッフ・ポートフォリオ作成WS申込み(氏名)

※ 定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。 ※ いただいた情報は、本ワークショップ以外に使用することはありません。

講師



小林 直人
教職員能力開発拠点代表
愛媛大学学長特別補佐
教育企画室長
教授



中井 俊樹
愛媛大学
教育企画室 副室長
教授
(SDC)



上島 洋佑
愛媛大学
教育企画室
特任助教



吉田 一恵
愛媛大学
教育学生支援部
愛媛大学SD統括コーディネーター
能力開発室長 (SDC)



西尾 澄光
愛媛大学
社会共創学部事務課
特定専門職員



秋谷 恵子
愛媛大学
総務部人事課
(SDC)



玉岡 兼治
聖カタリナ大学
図書課 課長



鈴木 洋
芝浦工業大学
教育イノベーション推進
センター事務課 課長

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名称：教職員能力開発拠点）に認定され（認定期間5年）、平成26年7月には、さらに5年間の再認定を受けました。教職員能力開発拠点では、FD/S D/I Rの専門家・実践的指導者の養成、長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/S D研修プログラムの提供など、幅広い取組を行っています。

12月7日（金）

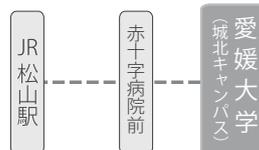
- 12:20 受付
- 12:50 オープニング（小林学長特別補佐・教育企画室長）
講師紹介・オリエンテーション
- 13:10 レクチャーⅠ（吉田）
「スタッフ・ポートフォリオ（SP）について」
「SPを作成することのメリット、
組織にとってのメリットについて」
「スタッフ・ポートフォリオにおける
メンター・メンタリングについて」
- 14:30 個人メンタリングⅠ-①
- 15:30 個人メンタリングⅡ-①
- 16:30 スタッフ・ポートフォリオ作成作業
- 17:20 メンターとメンティーⅠ・Ⅱで振り返り
- 17:40 終了
- 18:45 情報交換会（参加任意）

12月8日（土）

- 09:00 レクチャーⅡ（上島）
「大学職員としてのキャリアを考える」
- 09:40 SP作成作業
- 11:00 個人メンタリングⅠ-②
- 11:30 個人メンタリングⅡ-②
- 12:00 ランチタイム（お弁当付き）
- 13:00 スタッフ・ポートフォリオ作成作業&発表資料準備
- 15:00 参加者全員でSP作成の振り返り（全講師）
- 16:00 クロージング
修了証授与 挨拶（小林学長特別補佐・教育企画室長）
- 16:10 終了
*終了後、写真撮影を行います。

アクセス

松山駅（市内電車環状線①
番古町方面行き）から
赤十字病院前まで約20分、
下車後北へ徒歩2～5分



愛媛大学城北キャンパス
(松山市文京町3番)
愛大ミュージズ1階



事前課題

スタッフ・ポートフォリオ

※スタッフ・ポートフォリオ作成の作業時間を2日間で6時間程度予定しています。一般的に完成までに12～15時間は必要なため、自身のスタッフ・ポートフォリオの記入可能な部分を全て記入し、期限までにご提出ください。

※受付完了後、スタッフ・ポートフォリオ様式をお送りします。

提出期限：平成30年11月19日（月）

提出先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

ノートパソコン

準備の難しい場合は、お申し込み時にお知らせください。